様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　23 年　3 月　31 日現在

機関番号：32621
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20730027
研究課題名（和文）国民内閣制論の研究：その根拠に遡った内在的・批判的検討

研究課題名（英文）Critical examination of Prof. Takahashi’s constitutional theory

研究代表者
小島　慎司　（KOJIMA　SHINJI）
上智大学・法学部・准教授
研究者番号：00468597

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：法学・公法学
キーワード：統治機構，信用，人格，進化，目的

１．研究計画の概要

高橋和之教授が唱えて学界の注目を浴びた国民内閣制論は，第三共和政期から第五共和政期のフランスの憲法学を参照して組み立てられている。これに対する批判はさまざまになされてきたが，内在的な批判，つまり，高橋教授が典拠として示した議論に即した批判は必ずしも多くなかった。そこで，本研究は，この欠を埋めるべく，フランス・ドイツの議論を歴史的に検討しようとすることを目的としている。

２．研究の進捗状況

（1）当初においては，高橋教授が根拠としていた Duverger と Capitant を検討の出発点とした。しかし，特に Duverger の議論はそれ以前の議論との関係があまり明確ではなく，そのため，高橋教授の議論を内在的に批判しようにも手がかりが明確ではないことが認識された。また，Capitant についてもドイツの議論を参照しており，現在のフランスではそれが注目されることはあるものの，基本的にはそれ以前の第三共和政期のフランスの古典的な議論との関係を意識することが有用であろうと思われた。

（2）そこで，第三共和政期の古典的な統治機構論をコンテクストに即して読み解く作業を始めた。当時のコンテクストは議会政の改革であり，大統領公選制という国民内閣制論とも連なる提唱が注目されていた。しかし，国民内閣制論と異なり，同時代の信用のネットワーク構造を意識したものと思われたので，そのことを論文①，②にまとめた。これは統治機構論と法人格論との交錯を示すものでもあった。

（3）その後，さらに検討を進めるなかで，統治作用が目的を設定する作用であることに注意を向ける必要を感じた。目的論が伝統的な政治学の一分野であることからすれば，当然のことではあるが，法学上のいかなる議論とリンクしているかは必ずしも明確ではない。論文③は，利益衡量論，コモンロー，権利濫用論，権限濫用論など馴染み深い議論との関係を明示したものである。

（4）検討の過程で 2006 年頃からとくにフランスで第三共和政期の法学の検討が急速に進んでいることを知った。このスピードは本当にはやく，心の底から焦燥感を感じた。そこで，平成 23 年度には勤務校に申請して在外研究を行う予定で，そのために上記の論文を仏訳してフランス人の研究者に送付した。

３．現在までの達成度

「①当初の計画以上に進展している」に該当すると思われる。

その理由：当初の研究目的は，非常にコンパクトなもので，高橋教授の議論を検討し直すことに限られていた。しかし，検討の中で，法人格論との関係，目的論との関係，さらには２には書ききれなかったが時間論，進化論との関係など実に多様なフィールドとの関係が明らかになった。率直に言って，当初の研究計画よりもはるかに魅力的な成果であり，私個人の研究生活にとってはかけがえのない経験であった。また，どの議論も，今から思えば当然のこととはいえ，日本ではあまり詰められていないものであり，冷静に考えてみても，学界全体に資するところも無ではないと思われる。

４．今後の研究の推進方策

これまでの方針を維持することで構わない

ように思われる。すなわち，
（1）２（2）に示した大統領公選論についての研究成果はドラフトにまとめてあるので，それを論文として公表したい。
（2）２（4）で示した在外研究においてフランス人と議論をし，その上でこれまでの研究を著書にまとめたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
①　小島慎司「公法における『目的』」上智法学論集，査読なし，54 巻 2 号，2010 年，53-86 頁
②　小島慎司「取引と法人格」ジュリスト，1378 号，2009 年，55-61 頁
③　小島慎司「国民主権」法学セミナー，査読なし，659 号，2009 年，24-27 頁

〔その他〕
　上記には，本研究と直接にかかわる成果しか述べていない。しかし，間接的には各種の成果が本研究と関係する。その他のこの期間の業績については，
http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/seika/kj_DB
を参照